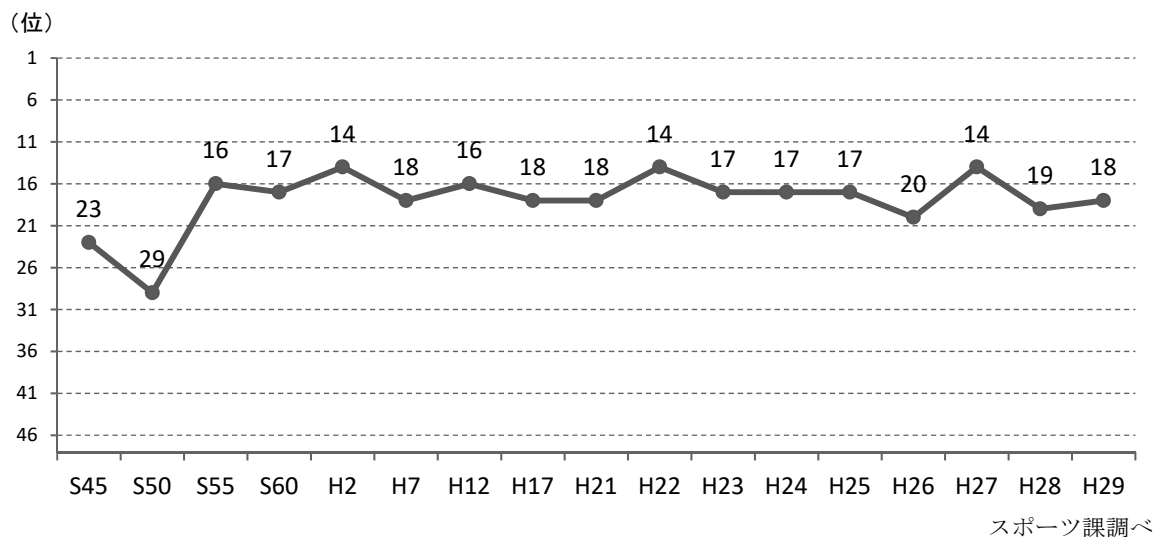


### (3) スポーツの振興

#### 現状と課題

- 週1回以上スポーツに親しむ人の割合は50%を下回っており、気軽にスポーツに取り組める環境の整備、すべての人がともに楽しめるスポーツイベント等の拡大が求められています。
- 運動不足が一因となり生活習慣病になる者が多い中、年齢や体力に応じたスポーツを指導することができる指導者が不足しています。
- 障がい者スポーツへの社会の関心は徐々に高まってはいますが、障がいのある人とない人との交流機会を増やし、障がい者スポーツへの支援につなげることが求められています。
- 国民体育大会や全国規模の大会等での活躍が一部の種目・選手に偏っており、県全体の競技レベルの向上が必要となっています。
- トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などの充実が求められていますが、アスリートの就職に関する企業の理解や認識を深めるための取組が必要となっています。
- 長野県スポーツコミッションを活用したスポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等の推進による地域経済の活性化が求められています。
- 2027年に本県で開催される「第82回国民体育大会」及び「第27回全国障害者スポーツ大会」の準備等を計画的に進めるとともに、多くの県民がスポーツの価値を享受でき、夢・希望・感動との出会いや、自己実現可能性の拡大に向けた環境を総合的に整備する必要があります。

図7-(3) 国民体育大会（天皇杯）成績の推移



### 目指す成果

- ◆ より多くの県民がそれぞれの関心や適性に応じて、安全にスポーツを親しむことができる生涯スポーツ社会を目指します。
- ◆ 障がいのある人とない人が一緒に運動やスポーツを楽しむことができる環境を整備します。
- ◆ オリンピック・パラリンピックへの出場など、国際舞台で活躍する本県選手の増加を図ります。
- ◆ 2027年に本県で開催される「第82回国民体育大会」及び「第27回全国障害者スポーツ大会」を契機とし、誰もが「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造を目指します。

### 主な施策の展開

スポーツを振興するために、次のような取組を進めます。

#### ① ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進

- 軽運動やニュースポーツ\*など気軽にできる運動・スポーツを普及し、余暇時間におけるスポーツの習慣化を促進します。
- 働き盛り世代の健康増進のため、企業等と連携しスポーツ機会の拡充を図ります。
- 運動時間が不足しがちな育児中の女性が心身の健康を保つための運動など、女性のニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。
- 生活習慣病予防のため、運動不足になりがちな働き盛り世代が、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診、保健指導の際の意識啓発を推進します。
- 体を動かす楽しみや介護予防の観点から、高齢期における身体活動が積極的に取り組まれるよう支援します。また、高齢者の身近な場所で運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。
- 県内で開催される世界大会や全国大会の情報を積極的に収集し、トップレベルの競技を身近で観戦できる機会の発信に努めます。
- 地域におけるスポーツイベントへのスポーツボランティアの参加を促進し、地域のスポーツクラブ等の活動の充実を図ります。
- 地域のスポーツ指導者や競技団体等と連携して、障がい者の自主的なスポーツ活動の継続・定着を図るとともに、障がい者スポーツに対する県民の理解を促進するため、積極的に障がい者スポーツを広報します。



障がい者スポーツ（アーチェリー）

## ② 地域のスポーツ環境の整備

- 地域のスポーツ活動を支える中核組織である総合型地域スポーツクラブの自立的な運営を支援するため、関係団体と連携し中間支援組織\*の整備を目指します。
- 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の競技会場地市町村と連携しながら、大会後も地域スポーツ拠点となる施設の整備を計画的に進めます。
- 県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、武道の普及を図ります。

## ③ 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上

- 国民体育大会で本県選手が活躍するため、県や関係団体等で構成する「競技力向上対策本部」を設置して、長期的な「競技力向上基本計画」を策定し、計画的に選手育成・指導者養成等に取り組みます。
- 小・中学校と連携し、長野県育ちのアスリートとなる子どもたちを発掘する体制を整備します。
- SWANプロジェクトを推進し、世界と競える高い資質を持った人材を発掘・育成します。また、同プロジェクトの共通プログラム等を他種目競技選手の育成にも活用します。
- 各競技団体が行う一貫指導体制による選手強化を支援します。
- 県内の大学・企業等と連携し、ICTや最先端のスポーツ医・科学を利用したトレーニングが受けられる体制の整備を研究します。
- 女性特有の課題に着目した医・科学サポート等の支援方法の研究を進めます。また、女性指導者の育成に努めます。



白馬村で開催された  
FIS ノルディックコンバインドワールドカップ

## ④ スポーツ界の好循環の創出

- 県内を拠点として競技活動を続けるため、県内企業等に就職するアスリートを増やす「長野県アスリート就職支援事業」をさらに充実・強化します。

## ⑤ スポーツの持つ力の多面的活用

- 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の競技会場地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図る取組を支援します。
- ラグビーワールドカップ 2019<sup>TM</sup>や、アジアで連続して開催されるオリンピック・パラリンピックの機会を最大限に活かし、事前合宿を誘致するとともに、長野県の特徴を活かしたスポーツ大会の誘致に取り組み、観光の振興、地域経済の活性化に結び付けていきます。
- 山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ、信州で親しまれているスポーツの魅力を世界に発信するとともに、より受け入れしやすい環境を整え、誘客を促進します。
- スポーツとしての登山を安全に楽しむために、登山者が安全登山の知識や技術を能動的に学べる機会を提供するなどにより、安全登山文化の醸成を図ります。

## ⑥ 「第 82 回国民体育大会」及び「第 27 回全国障害者スポーツ大会」の開催に向けた取組

- 国民体育大会開催基本方針等に基づき、準備委員会において計画的に開催準備を進めます。

成果指標

| 成果指標項目                                 | 現 状               | 目 標               | 備 考                              |
|--|-------------------|-------------------|----------------------------------|
| 地域スポーツクラブに登録している会員の割合                  | 10.1%<br>(2016年度) | 15.0%<br>(2022年度) | スポーツ課調べ                          |
| 障がいのある人が参加するプログラムを行っている総合型地域スポーツクラブの割合 | 13.2%<br>(2016年度) | 50.0%<br>(2022年度) | 障がい者支援課調べ                        |
| 国民体育大会男女総合（天皇杯）順位                      | 18位<br>(2017年)    | 10位以内<br>(2022年度) | スポーツ課調べ                          |
| 運動・スポーツ実施率                             | 49.3%<br>(2016年度) | 65.0%<br>(2022年度) | 県政モニター調査<br>週1回以上運動・スポーツをする成人の割合 |
| スポーツ観戦率                                | 13.4%<br>(2016年度) | 15.0%<br>(2022年度) | 県政モニター調査<br>競技場等に出かけスポーツ観戦した人の割合 |
| スポーツボランティア参加率                          | 8.1%<br>(2016年度)  | 10.0%<br>(2022年度) | 県政モニター調査                         |

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する2023年度に把握できるものとしています。

特色ある取組

オリンピックメダリストの育成を目指す、  
SWANプロジェクト

長野県では、子どもたちの「世界で活躍する競技者となる」夢をかなえるため、オリンピックメダリストを目指した選手の育成を行う「SWANプロジェクト」(Superb Winter Athlete Naganoプロジェクト)を実施しています。

2009年から始まった「SWANプロジェクト」は、国のスポーツ基本計画及び長野県スポーツ推進計画に沿った競技力向上の視点に立ち、1998年長野冬季オリンピックの遺産である人的・物的・環境資源を最大限に活用しながら、フィジカルトレーニングはもちろん、メンタル面や栄養面、スポーツ医学やオリンピック教育などオリンピックを目指す子どもたちに、様々なプログラムや環境を提供しています。

現在（2018年3月現在）68名の子どもたちが、オリンピックを目指して「育成プログラム」に取り組んでおり、JOCジュニアオリンピックカップ、全国中学校体育大会等に数多くの選手が出場し、上位入賞を果たしています。

62名の修了生の中には、ナショナルチームに選出されるメンバーもあり、今後も活躍が期待されます。

